

巡検・セミナー開催のご案内

■巡検・セミナー計画

2025(令和7)年春の巡検を開催します。昨年12月に開催が延期になりました、**利根運河巡検**を本年3月に開催予定です。

東武アーバンパークライン(東武野田線)「運河」駅～利根運河交流館～窪田味噌醤油等(運河駅までは大宮から約50分、柏から約15分)。

春うらら、「利根運河」(運河駅周辺)を知る巡検です。

集合：10時、東武アーバンパークライン「運河」駅改札(橋上駅)

現地へのルート、時刻表などの情報は2月中旬、ホームページに掲載予定です。一般の方の参加も歓迎。

URL https://chizujoho.jp/org/04_event/index.html



巡検詳細ページ。当日の開催・中止もこちらに掲載します。

展覧会情報

京都を学ぶ 絵と図で見る京都

期間 ～2月15日

会場 大谷大学博物館(京都市北区)

サイト https://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/museum/

第28回全国児童生徒地図優秀作品展

期間 ～2月16日

会場 地図と測量の科学館(つくば市)

サイト <https://www.gsi.go.jp/MUSEUM/>

古地図からひろがる世界—南波松太郎・蒐集70年の軌跡—

期間 ～3月23日

会場 神戸市立博物館(神戸市中央区)

サイト <https://kobecitymuseum.jp>

「あれも地図・これも地図」展

期間 ～3月31日

会場 切手の博物館(東京都豊島区)

サイト <https://kitte-museum.jp>

mini地図NEWS

「東京都デジタルツイン3Dビューア(β版)」公開

東京都では、デジタルの力で東京のポテンシャルを引き出す「スマート東京」の実現を目指し、「デジタルツイン実現プロジェクト」を推進しており、その一環として、デジタルツインの基礎となる都内全域の「3次元点群データ」の整備を進めていましたが、この度、区部の3次元点群

データをオープンデータとして広く活用できるようにするとともに、「東京都デジタルツイン3Dビューア」に掲載します。

昨年度に公開した多摩・島しょ地域(小笠原諸島を除く)のデータと同様、国内で公開されている航空レーザ測量による点群データとしては、最も高い精度となっています!

航空機等により、レーザースキャナーで地表面や建物等の空間情報を測量して生成された、3次元(X,Y,Z)の位置情報を持つポイントデータです。



(画面はテキストチュア付き3Dマップ。色線・点は都営地下鉄・都バスのリアルタイム情報を加えたもの)

3Dモデルでみる東京 | 東京都デジタルツイン実現プロジェクト

<https://info.tokyo-digitaltwin.metro.tokyo.lg.jp/3dmodel/>
(東京都：報道発表)

地図絡み

長年の謎、「糸魚川」と言う河川は存在するのか？

(一財)地図情報センター 監事 伊藤 等

はじめに

実に長い年月、「糸魚川」と言う河川は存在するのか不明だった。某地理学者に伺ったところ、「ありますよ」といわれ地図帳で調べても探せなかった。

(一財)日本地図センター『地図中心』2024年11月号626号に「総特集 糸魚川-静岡構造線断層帯」を手にして決断。調べてみよう！

まずは糸魚川市役所ホームページで調査(引用中ルビ・図版、一部の説明は削除)。

引用：<https://www.city.itoigawa.lg.jp/6285.htm>

糸魚川市に「糸魚川」という川はありません(市名のいわれ)

「糸魚川」という河川がないのになぜこのような地名が付いたのか、その疑問にお答えするため、下記のようにまとめてみました。

伝説レベルでは下記のようなものがあります。

諸説1: 弘法大師(空海)が竹管に糸を巻いて川に投げたところ、たちまち魚となって泳ぎまわった。

諸説2: 対立する軍(どのような軍かは不明)がこの地で挑みあったので「いどみ川」から転じて「いといがわ」となった。

諸説3: 淀川から転化して「いといがわ」となった。その他、災害がよくおこるので「厭川」から転化した。

また、最もまことしやかに囁かれる説に下記のものがあります。

諸説4: 糸魚が市内の河川に多く棲んでいたことから付いた。

これが旧糸魚川市(昭和29(1954)年6月1日市制施行)の市章となったものですから、いよいよまことしやかな説になっているようです。

次に『糸魚川市史』第1巻(糸魚川市役所 1976)で執筆者の青木重孝が唱えた説があります。

諸説5: 古代、新羅人が日本に渡り帰化人となり、糸井と名乗り、この地に住み着いたことから付いた。

青木の説によると、新羅のある集団が日本に渡り、まず、兵庫県の但馬の地を開き糸井造^{かほね}という姓を名乗り、その後、この一族がこの地方に入ってきたことから付いたということです。

実際、兵庫県のこの地域には糸井村・糸井川(いずれも現在の朝来市内)という名前が今に伝わっています。青木は、糸井造の一族は当地方では具体的に姫川(糸魚川市を流れる1級河川)を見下ろすことのできる地に館を構え、眼下の荘園を管理したとしています。

この説に基づきますと、糸井造の勢力を象徴する河川である姫川がかつて「糸魚川」と呼ばれていた可能性があるといえます(しかし、史料はありません。推測の範囲です)。

同じく『糸魚川市史』第1巻(糸魚川市役所 1976)では、古文書の中から地名の出現を探っています。

沼河	延元2(1337)年2月	禰知盛継状
沼川	康永4(1345)年2月	村山高直軍忠状
沼川	正平7(1352)年閏2月	村山右京亮軍忠状
糸井川	至徳4(1387)年9月	市川頼房軍忠状
糸井河	永享4(1432)年9月	一之宮梵鐘名
いとい川	寛正6(1465)年7月	堯恵「善光寺紀行」
糸魚川	永正6(1509)年9月	村山氏系図
糸魚川	永正6(1509)年9月	長尾為景書状
糸魚河	永正7(1510)年6月	上杉定実書状

と例示されています。

これによると、1387年のあたりを境に地名が変わったように見られますが、「沼川(河)」「ぬなかわ・ぬながわ」はより広域を指す地名、比して糸井川(糸魚川)は狭い地域を指して用いられています。

また、「糸井」という言葉は本来、糸のように流れる細い川という意味があるようで、姫川のような大きい河川が果してそのように呼ばれたものか疑問ですし、更に、何故「井」が「魚」になったのか、全く不明です。

上流を姫川、下流を糸井川と呼んだ、あるいは姫川下流の一支流を糸井川と呼んだなどの説もあります。

以上見てきたように「糸魚川」の地名の起こりには諸説あり、現在最も有力とされている「諸説5」も疑問点が指摘されているという状態です。

それでも地理院地図地名検索で

北海道苫小牧市 小糸魚川(3か所)と検索され、以下を引用しました。

https://www.hkd.mlit.go.jp/mr/tomakomai_kasen_keikaku/tn6s9g0000001dqm.html 国土交通省 北海道開発局 室蘭開発建設部

小糸魚川は、流路延長27km、標高0~200m、200~1000mまでの平均溪流勾配はそれぞれ1/100、1/8となっています。

自然環境としては、上流に口無沼、中間部に小糸環境緑地保護地区として指定されています。また、動物は、希



少種のクマガラが生息しています。

「糸魚川」はなくても「小糸魚川」は北海道苫小牧市に存在していました(一寸安堵)。

(2024.12)